



千代田エコシステム(CES)

クラスⅡ ガイド

【改訂版】

平成21年4月

C E S推進協議会

目 次

第1章	千代田エコシステム(CES)	1
第2章	CES活動の全体の流れ	2
第3章	クラスⅡの活動の流れ	4
第4章	クラスⅡ導入ガイド	5
I	計 画	
	1. 目標の決定	5
	2. 計画表/実績表(様式Ⅱ-1)の作成	5
	3. 実行チェックシート(様式Ⅱ-2)の作成	8
II	活 動	
	1. 人材育成(計画表/実績表(様式Ⅱ-1)に記載)	10
	2. 情報記録(様式Ⅱ-1特記事項)に記載)	10
III	点 検	
	1. 活動状況の点検	11
IV	改 善	
	1. 目標が達成されていない場合の改善	12
	2. 活動のまとめ	13
	3. 経営者による活動全体の評価と見直し	13
	4. 活動報告書の作成と提出	13
	5. CES活動の登録書の授与	13
	【記載例】	
	計画表/実績表	7
	実行チェックシート	9
	活動報告書	14
クラスⅡ	資料編	
資料一	1 CES活動における行動の具体例	16

第1章 千代田エコシステム(CES)

近年、業務ビル集中による騒音や大気汚染のほか、増大するエネルギー使用に起因すると考えられるヒートアイランド現象や地球温暖化などの問題が生じています。地球温暖化対策については、これまで自治体や事業者により様々な取組みが行われてきましたが、一人ひとりの自覚と行動が必要不可欠と考えられています。

千代田区では、平成20年1月に「千代田区地球温暖化対策条例」が施行され、二酸化炭素の排出量を2020年までに1990年比で25%削減するという中間目標が設定されました。また、平成12年3月に制定された「千代田区環境配慮指針」では、「住み、働く人々が協力しあう環境にやさしいまち、環境負荷の少ない資源循環型都市・千代田」を掲げています。

平成21年1月、千代田区は「環境モデル都市」に選定されて、低炭素社会の実現に向けた取組みが重要であると位置付けられています。

これらを実現させるには、区だけでなく、区民・事業者など多くの人々が参加できる環境活動の仕組みが必要であるため、千代田区では、独自に「千代田エコシステム(Chiyoda Eco System、以下「CES」といいます。)」が策定されました。

CESの「エコ(Eco)」は、エコロジー(Ecology)とエコノミー(Economy)の二つの意味を併せ持つもので、環境活動を経営に生かしていただきたいという意図が込められており、環境活動を実行する仕組みを提供するものです。

第2章 CES活動の全体の流れ

CES活動の全体の流れは、3ページに示すとおりです。

まず、CESに取り組むことを決め、全従業員に開始を宣言するとともに、取り組みに当たっての実施体制を整備します。

その上で、「クラスⅡガイド」に沿って、計画の作成(Plan)、計画の実施(Do)、取組状況の点検(Check)、全体の評価と見直し(Act)という、PDCAサイクルにより活動を進めます。

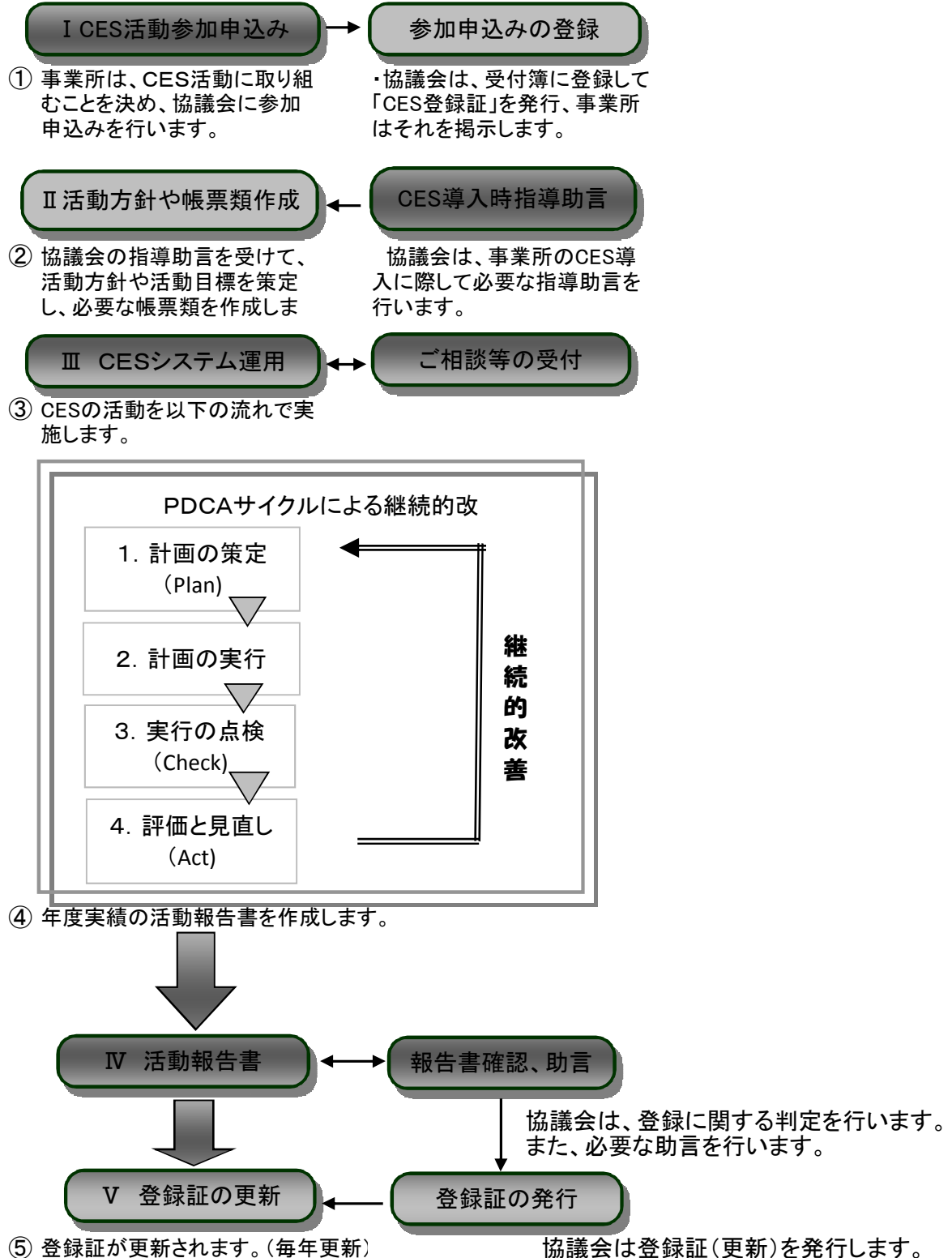
特に、全体の評価と見直しでは、経営者が活動全体の評価を行うことで、改善すべき点を検討して新たな「計画」に反映させます。

このPDCAサイクルを繰り返すことによって、活動を継続的に改善しながら高い成果を目指します。

CES活動の全体の流れ

【事業所】

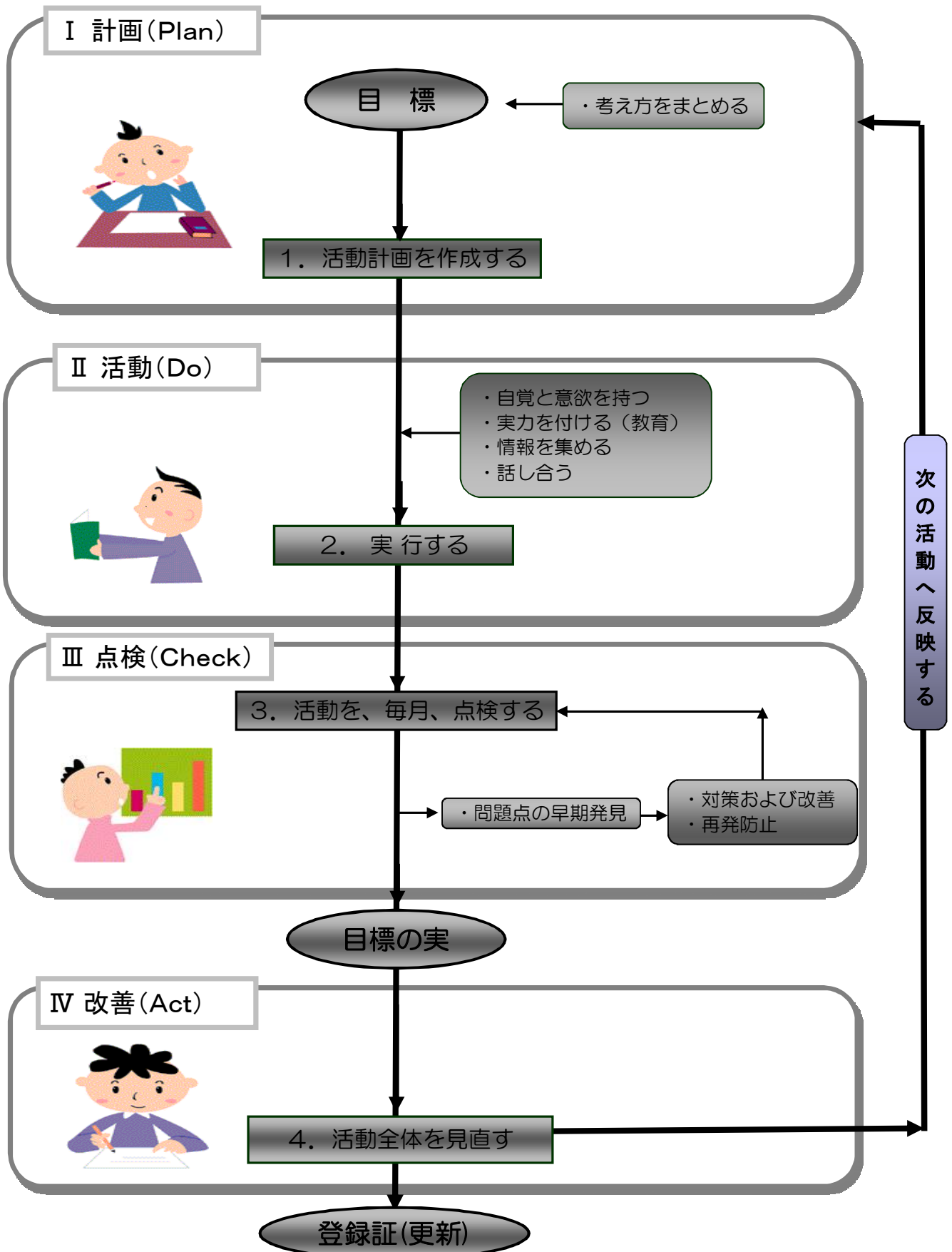
【CES推進協議会】



第3章 クラスⅡの活動の流れ

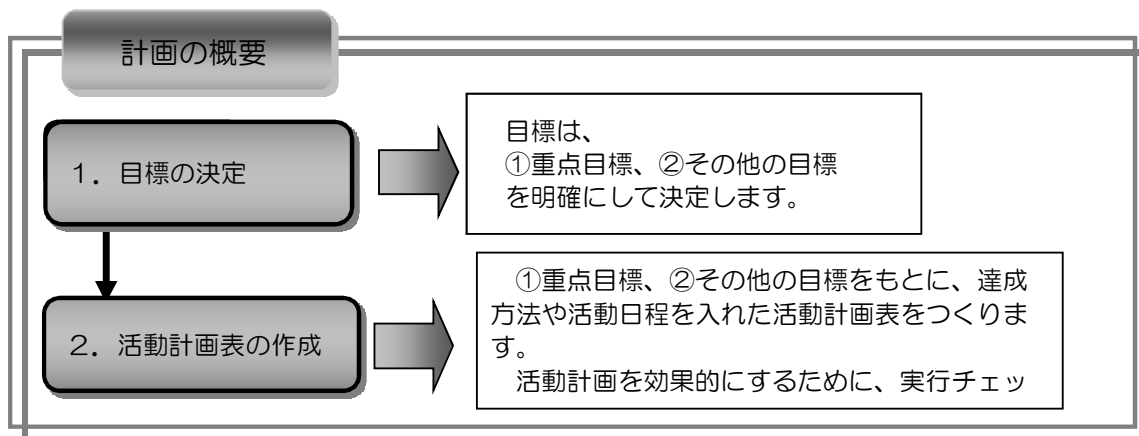
CESⅡの活動は、環境活動でどんなことに取り組むべきかという目標をはっきりさせ、それを一つずつ確実に実現させていきます。

計画作成から、活動、点検、改善までの活動の流れは次のとおりです。



第4章 クラスⅡ 導入ガイド

I. 計画



1. 目標の決定

経営者は、CES活動の取組みを始めるにあたり、何に重点をおいて活動するか、重点目標を決定します。

2. 計画表/実績表(様式Ⅱ-1)の作成

重点目標のほか、CES活動で取組む目標を整理して、いつ、何を行うかについて具体的な計画を立てます。

【記載方法】…7ページに示す記載例を参照してください。

<目標>

今年度の「目標」を記入します。

客観的に評価を行うため、目標は、実現したい具体的な数値を記入するようにします。

(例) ごみの削減 ⇒ ごみを前年度比20%削減する
 配慮型製品の取り扱いを増やす ⇒ 環境配慮型製品の比率を80%にする

累積値が計算できる数値は累積値も管理するようにします。

活動チェックシート(様式Ⅱ-2)による調査結果の評価を「目標」として取込みます。

環境教育・訓練も「目標」に取り込んで計画的に行います。

目標は、数値で示すと客観的に評価できます。次表に数値目標の例を示します。

種類	数値目標の例
1 資源の使用	紙・水等の資源使用量、リサイクル材等の使用量
2 エネルギーの使用	電気・ガス・ガソリン等の使用量、自然エネルギーの使用量
3 製品	環境配慮型製品の数、危険表示の数(時期)
4 サービス	利用者の数、啓蒙啓発の件数、提供の時期、質の向上率、費用、快適
5 廃棄物	紙ごみ量、生ごみ量、廃棄物排出量
6 その他の無駄削減	会議の回数、会議の時間、業務の時間
7 資源リサイクル	紙リサイクル量、分別の量、簡易包装の数
8 土壌汚染	汚染している土壌量
9 排水	排水の濃度、排水量、排水の汚染量、削減率
10 大気放出物	騒音、振動、悪臭
11 排出炭酸ガス量	排出炭酸ガス量
12 地域環境の保全	緑化面積、清掃回数、実施施策数、地域活動への参加 ごみ持ち帰り、環境啓発回数、従業員環境活動奨励
13 環境教育・訓練	実施回数、実施月

<達成方法/担当者>

目標を達成するための具体的な達成方法を記載します。

目標を達成するために、いつ、何をするかを記入します

達成するためのスケジュールを記入します。

目標の達成に責任を持つ担当者の名前を記入します。

<スケジュール欄>

各月の目標値は、計画当初において記載します。

実績値は、実績が把握できた時点で、できるだけ速やかに記載します。

- ・目標値に対して実績値を判断して○×で評価します。
- ・早期に×を発見することが肝心であると認識して評価します。
- ・毎月毎月○である場合は、目標値の見直しを検討することも必要です。

<特記事項>

改善提案、問題点对策、緊急事態発生などの特記事項を記入する。

【記載例】

様式Ⅱ-1

CES活動 計画表/実績表

事業所名：九段株式会社

作成日：平成20年4月1日 作成者：神保花子

目 標	達成方法/担当者	スケジュール												
		月次 チェック	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 電気使用量の削減 ・電気の使用量を昨年度比、累積値で3%以上削減することを目標とする。	①様式Ⅱ-2「CES活動 実行チェックシート」の省エネルギー(電気)の5つの項目を実行する ②電気使用量の実績を把握して、前年との比較を行う (神保)	昨年度実績値	8,200	7,700	7,800	7,400	7,600	7,500	7,000	7,100	6,800	6,900	6,900	6,500
		同上累積値	8,200	15,900	23,700	31,100	38,700	46,200	53,200	60,300	67,100	74,000	80,900	87,400
		本年度実績値	7,900	7,800	7,200	7,000	7,600	7,200	6,500	6,500	6,500			
		同上累積値	7,900	15,700	22,900	29,900	37,500	44,700	51,200	57,700	57,700	57,700	57,700	57,700
		累積削減%	-3.7%	-1.3%	-3.4%	-3.9%	-3.1%	-3.2%	-3.8%	-4.3%				
2 実行チェックシートによる行動の評価 ・事業所の総合平均値が1.5以上を目標とする。	①様式Ⅱ-2「CES活動 実行チェックシート」を用いて毎月末に調査をする ②事業所の総合平均値を実績欄に記載して評価する (神保)	目 標	○ ×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		実 績	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
		評 価	○ ×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 環境教育の実施 ・年間4回以上実施する。	①新入環境教育を実施する。(4月) ②一般環境教育を実施する。(6月) ③管理職環境教育を実施する。(10月) ④資格業務研修を実施する。(12月) ⑤その他、不定期に実施した場合は記録する。 (神保)	目 標	○ ×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		実 績	新人教育 4/25実施 20名参加	一般教育 実施時期 を変更し た	7/1実施 80名参加									
		評 価	○ ×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
特記事項	①改善提案 ②問題点対策、緊急事態発生、苦情 ③その他(地域交流等)	改善提案	4/4 ボイラ停止 時刻繰上げ				8/2 廃封筒の有 効利用							
		問題点対策、緊急事態発生、苦情	4/20 廃封筒 飛散苦情		6/1 節電行動の 徹底を指示			9/10 確認瓶が落 下						
		その他(地域交流等)		5/15 一斉清掃		7/30 打水作戦		9/10 キッズイヘ ント						
＜上半期のまとめ＞ (記入者：千代田)		＜年度のまとめ＞ (記入者：)												
省エネルギーの節電対策において、5月に前年実績を上回ったので、6月1日の連絡会で周知した結果、それ以降は問題なく推移している。 各自の環境配慮行動に関するアンケートでは、毎月の目標値15に対して、上半期は1回の未達成があり、引き続き、運用面での各自の意識向上を図っていきたい。 一般環境教育は、新エネルギーに関する知識取得をテーマとして実施し、アンケート調査の結果から、無駄な照明を消灯するなど節電への認識が一層高まったといえる。		＜次年度への反映(記入者：)												

3. 実行チェックシート(様式Ⅱ-2)の作成

目標の実現に向けて、各人が実行した活動を自己評価して実行チェックシートに記入します。

【記載方法】…9ページに示す記載例を参照してください。

<重点項目>

事業所として取組む重点項目を決定して記載します。

<実行内容>

事業所で各人が取組む実行内容を記入します。

資料「環境配慮行動の実行例」を示しますので、参考にしてください。

<氏名>

事業所における各人の名前を記載します。

<評価点数>

実行結果の評価では、取り組んだ結果を各人が点数で記入します。

点数のつけ方は

実行できた場合	……………	2点
ときどき実行できた場合	……………	1点
実行できなかった場合	……………	0点
該当しない場合	……………	-

評価点を、0、1、…、5、と細分化して評価することも考慮します。

<合計、該当者数、平均値>

自己評価結果の点数の合計、該当者数及び平均点をそれぞれの欄に記入します。

電気、ガス等の重点項目ごとに平均値を記載します。

全項目の平均値を記載します。

エクセルシートは、自動的に計算されるようになっています。

<その他>

「CES活動計画/実績表」にて活動結果を評価するようにします。

「CES活動計画/実績表」による評価では、電気、ガス等の重点項目ごと分けて取組むことも考慮します。

【記載例】

様式Ⅱ-2

CES活動 実行チェックシート

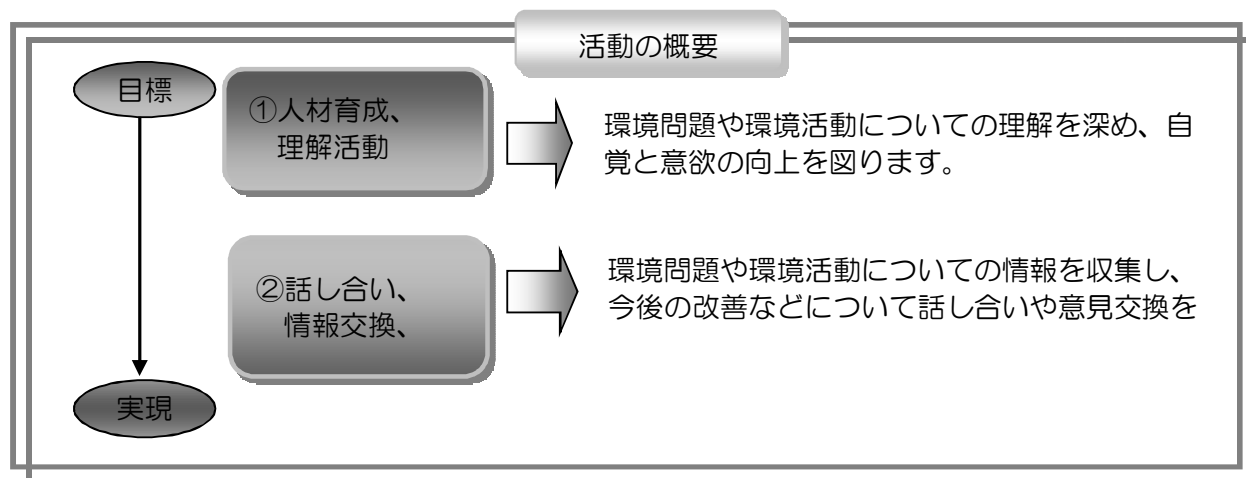
平成21年4月

1. 評価は、「実行できた:2 ときどき実行できた:1 実行できなかった:0」とする。
2. 該当しない項目は「-」を記入する。
3. CES活動の具体例を資料Ⅱ「CES時活動の具体例」に示す。
4. 各月の平均値を様式Ⅲ-3「CES活動計画/実績表」を用いて評価する。

重点項目	実行の内容	氏名								合計	該当者数	平均点	
		神保太	千代田	九段	神保次								
省エネルギー	1	パソコン、OA機器等は長時間使用しない時は、電源を切っている。	1	2	2	1					6	4	1.5
	2	使用しない機器は、コンセントを抜いている。	2	2	2	2					8	4	2.0
	3	コピー機やプリンターは、不使用時は節約モードに切替えている。	2	1	1	2					6	4	1.5
	4	各階への移動は階段を使うようにしている。	2	1	2	1					6	4	1.5
	5	残業時には照明は最小限にしている。	2	2	1	2					7	4	1.8
	6	会議室、給湯室、更衣室を使用した後は消灯している。	2	1	2	2					7	4	1.8
												1.7	
ガス	1	湯沸し器の口火は小まめに消している。	2	2	2	2					8	4	2.0
	2	必要なだけの量のお湯を沸かしている。	2	2	2	2					8	4	2.0
												2.0	
水	1	水道は小まめに水栓を閉めている。	1	1	2	1					5	4	1.3
	2	トイレでは何回も水を流さないようにしてる。	1	2	1	0					4	4	1.0
												1.1	
省資源	1	会議資料の削減に努めている。	2	2	2	2					8	4	2.0
	2	裏面利用に心がけている。	2	2	2	2					8	4	2.0
	3	両面コピーを心がけている。	2	2	2	2					8	4	2.0
	4	書類は配布せず閲覧するようにしている。	2	2	2	2					8	4	2.0
	5	文書の電子データー化に努めている。	2	2	2	2					8	4	2.0
												2.0	
ごみ等	1	ごみの分別基準を守っている。	2	1	2	1					6	4	1.5
	2	ごみになるような物を持ち込まないようにしている。	1	1	1	1					4	4	1.0
	3	事務用品の共用利用に努めている。	1	1	1	1					4	4	1.0
												1.2	
関心事	1	公共空地で目についたごみを拾うようにしている。	1	1	1	1					4	4	1.0
	2	買物時にマイバックを利用するようにしている。	1	1	1	1					4	4	1.0
	3	クールビズ、ウォームビズを実行している。	2	2	2	2					8	4	2.0
												1.3	
総合（平均値）		##	##	##	##					6	4	1.6	
評価 (取り組みに対する評価を記入してください。)		公共でのゴミ拾いやマイバッグの持ち歩きの定着が悪い。次回の情報交換会で話し合いのテーマとしたい。(九段)											

II. 活動

策定した活動計画をもとに活動を実施します。
環境についての理解を深めたり、話し合いなどによりアイデアを募ります。



1. 人材育成（計画表/実績表（様式Ⅱ-1）に記載）

環境意識を高め、家庭や地域でも環境への取り組みを行うために、全ての従業員に対して、環境問題の現状やCES活動の意味と必要性を理解することも重要になります。

人材育成は、全ての従業員に対する一般教育だけではなく、それぞれの業務や役割に応じた教育を実施することが重要になります。

人材育成一覧表

区分	対象者	教育担当者	教育内容	頻度
新人教育	新人社員	推進担当者	①環境問題の現状 ②自分の業務と環境との関係 ③活動を継続し改善することの重要性	配属時
一般教育	社員	推進担当者	①緊急時対応訓練 ②環境問題の新情報（制度、新技術等）	定時
資格業務研修	資格保有者	推進責任者が指名する者	①法改正内容の徹底 ②現場確認と手順書の見直し	年1回以上

2. 情報記録（様式Ⅱ-1特記事項）の作成

事業所内での環境配慮行動を促進するために、話し合いや情報交換を行い、従業員からの提案を取り入れたり、外部に向けて環境配慮行動を公表します。

また、外部から苦情や要望があった場合にはこれに対応します。

事業所内の話し合いや情報交換をどのように行っていくかあらかじめ内容や方法を決めて実施します。

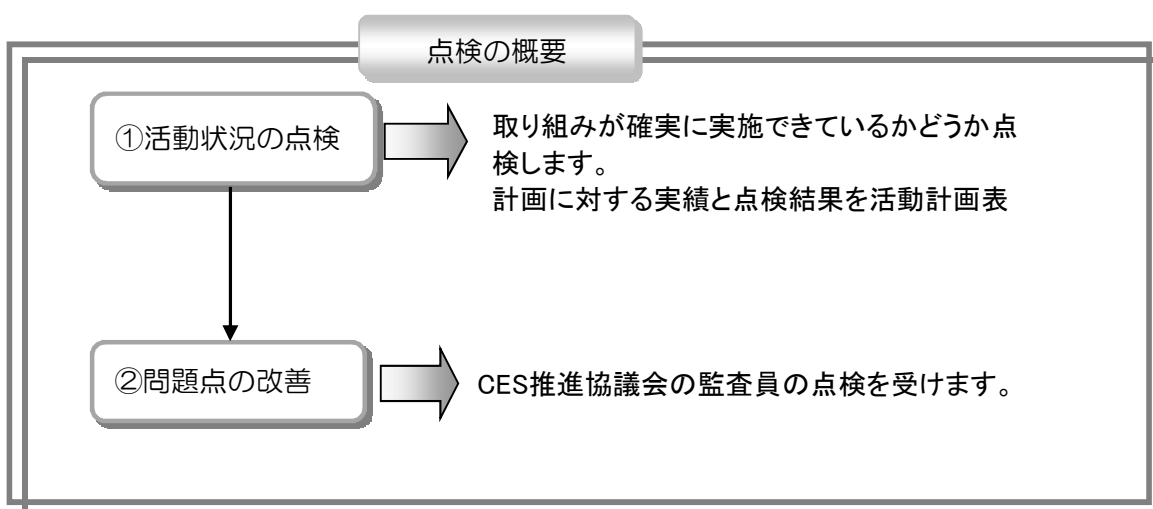
(1) 事業所内の情報交換等

事業所内において環境配慮に関する提案を取り入れたり、事業者での取り組みを外部へPRするために、情報発信の内容と方法を決めて実施します。重要なものは情報記録（様式Ⅱ-1特記事項）に記録し

(2) 事業所外からの情報の扱い

事業所外部から意見や苦情等をうけた、重要なものは情報記録（様式Ⅱ-1特記事項）に記録します。

Ⅲ. 点検



1. 活動状況の点検（計画表/実績表（様式Ⅱ-1）に記載）

(1) 1ヶ月ごとの取り組み状況の点検

事業所で使用したエネルギー及び水の使用状況や廃棄物排出量を1ヶ月ごとに点検します。

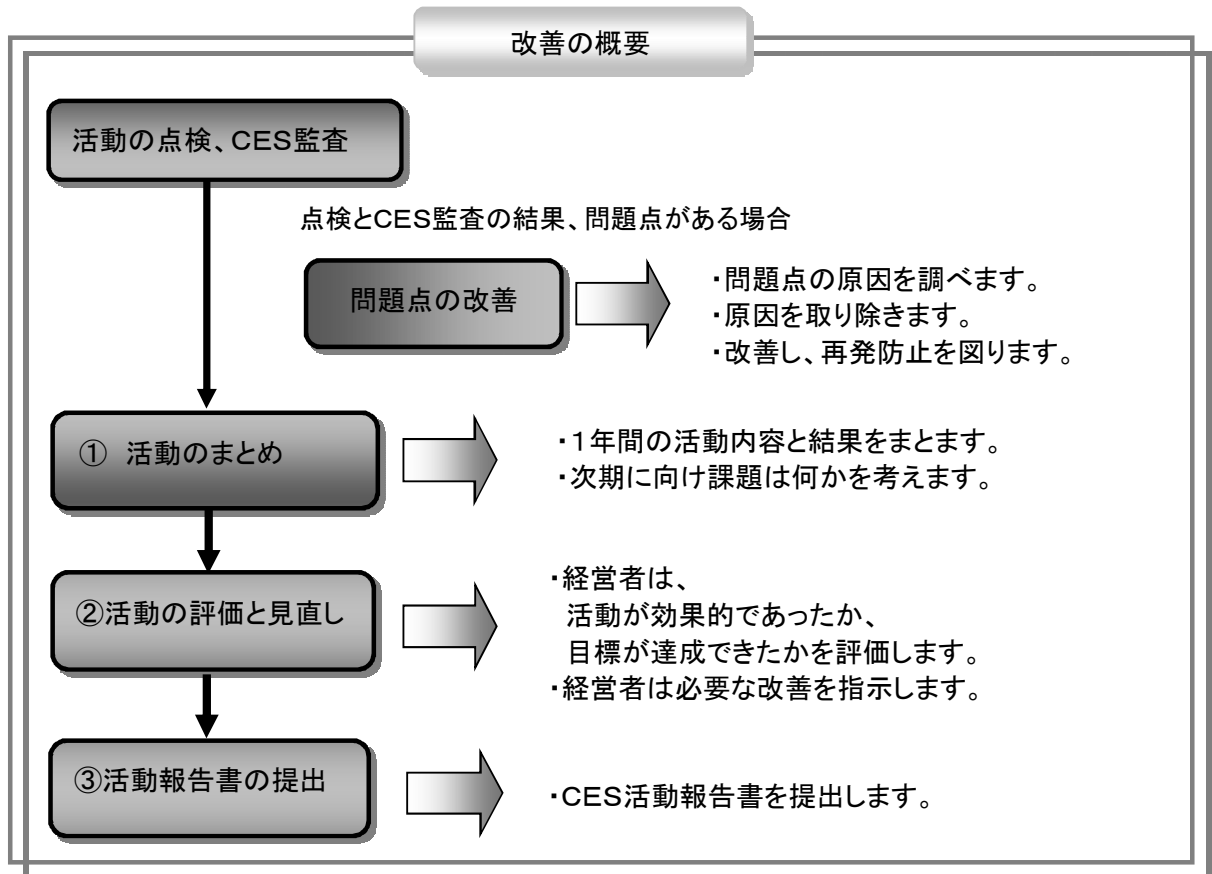
(2) 6ヶ月ごとの取り組み状況の点検

最初に設定した環境目標の達成状況を確認します。

目標を達成できなかった場合、原因を確認し、次年度の目標設定と活動の参考にします。

【記載方法】…7ページに示す記載例を参照してください。

IV. 改善



1. 目標が達成していない場合の改善

CES活動において、運用面において不具合な事実が生じた場合が該当します。
目標未達成(2ヶ月継続)、約束事の不履行などがあります。

問題点がある場合は、改善のための検討を行い、問題点の原因を考えて除去します。

2. 活動のまとめ

CES推薦責任者は、4月から翌年3月までのCES活動の結果をまとめます。

- ①活動計画表(様式Ⅱ-1)のまとめ
 - ・目標それぞれの達成状況
 - ・資源、エネルギー等使用量の削減状況
 - ・環境教育の実施状況
 - ・外部からの苦情等への対応
 - ・社内情報交換、イベントへの参加
 - ・社員による改善提案
 - ・環境に影響を与えた緊急事態
- ②問題解決のまとめ
 - ・CES活動運用上の問題
- ③前回までの経営者による見直し指示についての実施状況

3. 経営者による活動全体の評価と見直し

経営者は、CES活動の結果から、次期の取り組みのための見直しを行います。
事業所で1年間CESに取り組んだ結果を確認して全体の評価を行います。
CES活動の次期取り組みにあたり、見直すべき事項とその方向性を指示します。

4. 活動報告書の作成と提出

CES推薦責任者は、4月から翌3月までの1年間(又は3ヶ月以上)が継続したら、CESの活動を振り返り、活動結果と次年度の取り組みを「活動報告書」にまとめて、経営者に報告します。

【記載方法】…14ページに示す記載例を参照してください。

<1. 目標に対する実績の評価>

目標に対して実績がどうであったかを評価して、次年度への反映する内容を記載します。

<2. 環境負荷の状況>

エネルギーや資源の使用量の実績2ヶ年の差異を記載します。
廃棄物排出量や回収量についても同様に記載します。

<3. 教育・訓練、改善事例>

<4. 環境法令順守>

<5. 社会貢献>

<6. 苦情>

3項～6項は、1年間の活動結果を記載します。記載例を参考にして活動状況を記載してください。

<7. 次年度の活動に向けて>

1年間の活動から得たものから次年度の計画にあたっての方向性を記載します。
活動方針、目標、改善提案、教育・訓練、社会貢献、法令遵守、苦情対応などがあります。

5. CES活動の登録証

経営者は、「活動報告書」をCES推進協議会に提出します。

活動報告書の提出を受けたCES推進協議会は、報告書を確認して登録に関する判定を行い、適合していれば「登録証(更新)」を事業者に発行します。

【記載例】

平成20年度 活動報告書

作成年月日:平成21年4月10日(金)

事業所名:九段株式会社

1. 目標に対する実績の評価

目標	実績	評価・考察	次年度への反映
1 電気使用量の削減 ・昨年度比、累積値で3%以上削減する。	3.6%削減	実行チェックシートの5つの項目を推進して目標を上回る効果を得た。	定着した項目ははずし、新たな項目を設定して2%削減を目指す。
2 チェックシートによる行動調査の評価 ・事業所総合の平均値を1.5以上とする。	平均評価点 1.6	年間総合では目標値をクリアしたが、5月に×となったので、取組みを再徹底した。	次年度は目標値を1.6以上とする。
3 環境教育の実施 ・年間4回以上実施する。	教育実施月: 4月、7月、10月、 12月、2月	講師の都合で6月に予定していた一般教育が7月に変更となった。 環境月間の行事としての環境学習会を、追加して、2月に実施した。	外部の講演会への参加を積極的に行い、参加者が社員へ報告する勉強会を実施する。

2. 環境負荷の状況

(1)エネルギー、資源の使用状況

種類	実績		差異		説明
	平成19年度	平成20年度	削減量	削減率	
電気使用量 kWh	90,000	86,800	3,200	3.6%	節電6項目の実施
都市ガス使用量 m ³	4,500	4,400	100	2.2%	給湯器温水低目設定
水道使用量 m ³	6,000	5,500	500	8.3%	トイレ水量調整実施
ガソリン使用量 l	5,000	3,500	1,500	30.0%	自転車の活用
コピー用紙使用量 枚	10,000	9,000	1,000	10.0%	資料の電子化

(2) 廃棄物の排出量

種類	実績		差異		説明
	平成19年度	平成20年度	削減量	削減率	
産業廃棄物排出量 kg	なし	なし	—	—	—
一般廃棄物排出量 kg	2,500	2,150	350	14.0%	—
・可燃物排出量 kg	800	750	50	6.3%	持ち込量の抑制
・不燃物排出量 kg	1,200	1,000	200	16.7%	マイボトルの励行
・紙類排出量 kg	500	450	50	10.0%	資料の電子化

(3)一般廃棄物の回収量

種類	実績		差異		20年度 リサイクル率
	平成19年度	平成20年度	増加量	増加率	
一般廃棄物回収量 kg	1,250	1,300	50	4.0%	60%
・可燃物回収量 kg	0	0	0	0.0%	0%
・不燃物回収量 kg	800	880	80	10.0%	88%
・紙類回収量 kg	450	420	-30	-6.7%	93%

3. 環境教育・訓練、改善事例に関する状況

(1) 環境教育

新人環境教育(4月実施)、一般環境教育(7月実施)、管理職環境教育(10月実施)、資格業務研修(12月実施)のほか、環境月間の2月に環境学習会を開催した。

(2) 改善事例

① ボイラー停止時刻の繰り上げ(4/1提案、4/4実施)

・これまで17時に停止していたが、16時30分にボイラーを停止することとした。

・暖房効果に支障は無く、その他の問題も無かった。

・これに伴う燃料削減効果は、重油2 $\frac{2}{100}$ と推定する。

4月以降の運転日は150日であったので、20年度は300 $\frac{2}{100}$ の削減効果を得た。

② 使用済み封筒の再利用(8/2提案)

・使用済みの封筒を社内連絡用や資料整理袋に再利用した。

4. 社会貢献に関する状況

(1) キッズイベントの開催(9/10実施)

・実施場所: めだか小学校校庭 ・内容: 廃物活用のおもちゃ作り

・参加者数: 子供55人、大人25人

(2) 地域一斉清掃への参加(5/15、参加人数3名)

地域一斉の道路や公共空地の清掃を行った。

5. 環境トラブルや苦情に関する状況

破棄するダンボールの近隣への飛散(4/20苦情あり)

・置場に囲いをして飛散しないようにした。(4/21対策実施)

・4/30に効果を確認した。その後問題なし。

6. 次年度の活動へ向けて

(1) 目標について

業務活動に変更はないので、目標について大きな変更は無い。

① 電力使用量の削減

・実行チェックシートの節電項目を見直しして2%削減を目指す。

② CES活動チェックシートによる環境配慮行動の評価

・次年度の目標値は、「評価点1.5以上」→「評価点1.6以上」に引き上げる。

③ 環境学習を実施する。

・20年度と同様に、年間4回以上の環境教育を実施する。

・そのほか、外部の講演会などへ積極的に参加し、所内の勉強会で社員に情報として提供する。

(2) 改善提案の活発化

2月の環境月間行事で優良提案を表彰することとし、提案制度の活性化を図る。

(3) 社会貢献、地域交流

① キッズイベントの開催

引き続き計画する。

② 地域一斉清掃への参加

引き続き参加する。

③ 緑化事業への参画

NPO主体の緑化プロジェクトに参加して植林に協力する。

以上

資料 CES活動における行動の具体例

1. 電気使用量の削減

a. OA機器、その他電気製品

1 OA機器や設備を使用しない時は、スイッチをこまめに切ります。
2 OA機器や設備を長時間使用しない時は、主電源を切ります。
3 使用しない機器は、コンセントを抜きます。(待機電力消費の無駄を無くす)
4 パソコンは省エネモードへの切替時間を早めに設定します。
5 プリンターやコピー機は、不使用時には節電モードに切替えます。
6 OA機器や設備は、定期的に清掃や点検を行います。
7 機器類の供用を進めて使用台数を減らします。
8 機器類の購入時には、省エネ型機器を導入します。
9 機器類を破棄する時は、リサイクルするように努めます。

b. 空調(電気使用設備)

1 冷暖房は、設備の省エネを考慮した適正温度とします。(通常は、冷房時28℃、暖房時20℃設定)
2 夏はノーネクタイにするなどクールビズ、冬は暖かい服装でウォームビズを徹底します。
3 冷暖房の効果を高めるため、ブラインドやカーテン等を有効に利用します。
4 空気の吹出口を塞がないようにして、通風を良くします。
5 冷房時に窓開けや換気窓を利用して、冷気を取り込みます。
6 冷房時および暖房時は、外気の取り入れを停止します。
7 CO2濃度を監視して、必要最小限の外気取り入れ量とします。
8 空調用機器は、省エネ型を採用します。
9 設備や装置内の残熱を利用して、停止は早めに行います。

c. 照明

1 昼休みなどの休憩時は消灯します。
2 使用していない部屋やトイレ、廊下は消灯します。
3 会議室、給湯室、トイレ、更衣室は使用後には消灯します。
4 残業時や休日出勤時は、不要な個所の照明は消灯します。
5 過剰な照明で無いか点検し、灯数を減らします。
6 日頃使うことが無い照明は、コンセントや管球を抜いておきます。
7 高効率の蛍光灯、インバーター照明等を採用します。
8 ランプや灯具は清掃して汚れを落とします。
9 部分照明でよい個所は、スポット照明を採用します。

d. エレベーター

1 エレベーターの利用を控え、階段を利用します。
2 勤務時間外や夜間はエレベーターの運転台数を減らします。
3 土休日は運転台数を減らします。

2. 都市ガス使用量の削減

a. 空調(ガス使用設備)

1 冷暖房は、設備の省エネを考慮した適正温度とします。(通常は、冷房時28℃、暖房時20℃設定)
2 夏はノーネクタイにするなどクールビズ、冬は暖かい服装でウォームビズを徹底します。
3 冷暖房の効果を高めるため、ブラインドやカーテン等を有効に利用します。
4 空気の吹出口を塞がないようにして、通風を良くします。
5 冷房時に窓開けや換気窓を利用して、冷気を取り込みます。
6 冷房時および暖房時は、外気の取り入れを停止します。
7 CO2濃度を監視して、必要最小限の外気取り入れ量とします。
8 空調用機器は、省エネ型を採用します。
9 設備や装置内の残熱を利用して、停止は早めに行います。

b. ガス使用機器

1 湯沸器の口火はこまめに消します。
2 お湯が沸いたらすぐ消します。
3 タイマーで時間を計って使います。
4 お湯の温度を低めに設定して使います。
5 電気ポットを電子レンジで代用します。
6 お湯は必要な量を沸かします。
7 電気ポットの供用を進め台数を減らします。
8 給湯器のお湯は、食器洗浄以外は使用しません。
9 冬季の寒い時以外は給湯器を停止とします。

3. 水使用量の削減

a. 手洗水、清掃水、飲水

1 水を無駄に流さないなど、日常的に節水します。
2 使用後は止水栓を確実に閉めます。
3 手洗用の水、洗車用の水は汲んで使います。
4 お湯は必要な量を沸かします。
5 水を利用する製品は、節水型のものを購入します。

b. 水洗トイレ水

1 トイレでの二度流しはしません。
2 トイレの1回の使用水流を減少します。

4. 紙使用量の削減

a. 事務用紙

1 作成資料を減少します。(簡素化、サイズ縮小)
2 送信状の廃止など、事務の簡素化を図ります。
3 資料を印刷する時は、最小限の部数にします。
4 些細な誤字等は手書修正とし、再印刷しません。
5 電子メールなどを使い、ペーパーレス化をします。
6 書類などは、個人配布から職場回覧に変更します。
7 片面を使用した用紙は、裏面を再利用します。
8 試しに印刷するような不要な印刷はしません。
9 印刷やコピーは両面使用を励行します。
10 在庫管理をして、資料の不要在庫や破棄量を減少します。
11 資料の電子化を進めます。
12 使用済みの破棄する紙は、リサイクルに回します。

5. ごみ排出量の削減

a. ごみの減量

1 セロテープや封筒などは共用化します。
2 不要なものは買いません。
3 ものを大事に長く使います。
4 ものを修理して使います。
5 簡易包装、多重包装は行いません。
6 ばら売りや量り売りを優先します。
7 マイバッグ持参を進めて、レジ袋使用を減少します。
8 持参する飲物は、水筒等の容器を使用します。
9 お茶を飲む時は、マイカップを使用します。
10 会議の際には、リユースカップを使用します。
11 割りばしを使わず、繰り返し使えるマイはしなどを使用する
12 ペーパータオルなどの使い捨て商品は使用しません。

b. 廃棄物の分別・リサイクル

1 空き缶、びん、ペットボトル、書籍雑誌類、新聞紙などは分別を徹底します。
2 紙、段ボールは、再使用・再利用を進めます。
3 食べ残し品や調理くず、割箸などはリサイクルに回します。
4 破棄する事務用品は、バザーやフリーマーケットに出します。
5 使用済みのファイルや封筒などは、再利用します。

6. 文房具、事務用品の購入

1 コピー用紙や封筒などは、古紙配合率の高い再生紙を購入します。
2 事務用品類は、再生した原料を使用した製品を選定して購入します。
3 冷蔵庫やエアコンなどは、省エネ型製品を購入します。
4 エコマークやグリーンマークなどの環境ラベリング製品を購入します。
5 環境配慮を行っている事業者から購入します。
6 製品の生産から破棄までのライフサイクルを考慮して購入します。

7. エコドライブ励行

a. 自動車

1 停車中、駐車中はエンジンをストップします。
2 不必要なアイドリングをしません。
3 急発進、急加速、空ぶかしをしません。
4 合理的、経済的な運行ルートを選択し、走行距離を短縮します。
5 経済速度で運転します。
6 多めの車間距離をとります。
7 日常できる点検整備を励行します。
8 タイヤの空気圧を適正にします。
9 不必要な荷物はトランクに乗せません。
10 カーエアコンの使用は控えめにします。
11 外気を取り入れ、冷暖房を節約します。

b. 通勤、業務上外出

1 毎週水曜日はノーカーデーを徹底します。
2 できるだけ公共交通機関を利用します。
3 近距離へ外出する時は、自転車利用や徒歩に努める
4 同じ方向であれば相乗りするなどして車の使用を効率的に行います。

8. 環境美化、緑化

1 敷地内や周辺の緑化を進めます。
2 ベランダ、屋上、壁面の緑化を進めます。
3 光害を防止するため、屋外照明の時間帯、方向、照明方法を工夫します。
4 看板などを設置する時は、景観や周辺住宅に配慮して工夫します。
5 清掃をします。
6 植木や植物に名札を付けます。

9. 地域貢献

1 環境保全のイベントやボランティア活動に協力又は参加します。
2 環境保全に関する基金や募金に協力します。
3 自治体が発する環境保全の取り組みに協力します。
4 地域に協力して私有空地を緑化します。
5 環境保全活動を企画し実施します。
6 情報公開を行います。
7 地域活動への提言を積極的に行います。

10. 環境学習、その他

1 環境学習や講演会に積極的に参加します。
2 環境問題を理解し、自らの業務に反映します。
3 社内で環境学習を実施します。
4 会議や打合せの時間短縮を図ります。
5 残業を減らします。
6 業務中の無駄を減らします。
7 失敗やトラブルを予測し、未然に防ぎます。

千代田エコシステム（CES）
クラスⅡ ガイド

【改訂版】

平成21年4月

発行	CES推進協議会
郵便番号	〒102-8688
住所	東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区本庁舎5階
電話	03（5211）5085